

島根県西部におけるニホンリスの生息確認

田中 旭*・安藤 誠也**・田村 典子***

The first record of *Sciurus lis* from western Shimane Prefecture

Asahi Tanaka, Seiya Ando and Noriko Tamura

概要: 中国地方のニホンリス (*Sciurus lis*) は環境省のレッドリストで絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) として分類されている。しまねレッドデータブックにおいてもニホンリスは情報不足 (DD) とされ、島根県内における生息調査では食痕確認箇所はきわめて少なく散発的で、絶滅の危険性が高いことが示唆されていた。

このたび、島根県西部 (邑南町旧羽須美村地内) で2019年に撮影されたニホンリスについて、撮影箇所周辺の環境調査を行い結果についてとりまとめた。

ABSTRACT: Japanese squirrel, *Sciurus lis* TEMMINCK, in the Chugoku District of Japan is classified as LP (Threatened Local Population) in Japanese RDB categories by Ministry of the Environment, Japan. There is little information on a Japanese squirrel in the Red Data Book of Shimane. The typical feeding scars as an evidence of Japanese squirrel existence have been seldom found in Shimane Prefecture during a survey in 2006. In the present study, we succeeded in taking a picture of a Japanese squirrel in western Shimane in 2019. We described the habitat environment located at Ohnan town where the photos of squirrels have been taken.

1. はじめに

ニホンリス (*Sciurus lis*) は低地から標高2000m程度の亜高山帯の森林に生息する日本固有種であり、本州、四国、淡路島、及び九州に分布するとされている (阿部, 2005)。しかしながら中国地方のニホンリスは2002年以降、絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) として記載されている (環境省, 2019)。島根県内の分布については第4回自然環境保全基礎調査 (環境庁, 1993) で一カ所のみ報告されており、過去の狩猟統計に「リス類」の捕獲記録が見られるのみで、しまねレッドデータブックにおいてもニホンリスは情報不足 (DD) とされた (島根県, 2014)。

また、隣県の刊行するレッドデータブックでは広島

県で絶滅 (EX) とされ (広島県, 2011)、山口県では1981年以降の確実な生息情報がないため絶滅危惧 I A 類 (CR) となっている (山口県, 2019)。鳥取県では準絶滅危惧 (NT) とされ、県東部から西部までの生息情報があるが西部の日野川以西の情報は少ない (鳥取県, 2012)。岡山県では絶滅危惧 II 類 (VU) とされ、東部を中心に分布をするが生息情報は少なく西部では稀である (岡山県, 2009)。

過去に中国地方で行われた生息調査では、島根県内における食痕確認箇所はきわめて少なく散発的で、絶滅の可能性が高いことが示唆されており (田村ほか, 2007)、目視・写真などでニホンリスの生息確認ができる情報は得られなかった。

しかし、レッドデータブックやまぐち (2019) では、「島根県、広島県においては鳥取県・岡山県の県境付

* 島根県東部農林振興センター, 〒690-0011 島根県東津田町 1741-1

Shimane East Agriculture and Forestry Promotion Center, 1741-1 Higashituda-cho, Matsue, Shimane, 690-0011, Japan

** 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

*** 多摩森林科学園, 〒193-0843 東京都八王子市廿里町 1833-81

Tama Forest Science Garden, 1833-81 Todor, Hachioji-City, Tokyo, 193-0843, Japan

近での目撃情報が近年増えている」と記されており、最近になって鳥根県東部や広島県東部には隣接県から分布が拡大した可能性がある。

著者の一人、田中は、鳥根県西部農林振興センターの業務で邑南町旧羽須美村地内に設置した自動撮影ビデオカメラ（ハイカムSP2）によって、2019年2月4日に記録された動画にリス類が撮影されていることを確認した。動画のリス類は共著者の田村によって、眼の周囲の白い体毛などの特徴からニホンリスと同定された（図1）。

筆者らは今回、撮影されたニホンリスが一過性だったのか否かを検討するため、撮影箇所周辺の森林で生息調査を実施し、改めてニホンリスを確認したので報告する。



図1 ニホンリス(2019年2月4日撮影)

2. 調査地および方法

ニホンリスが撮影された図1の周辺は、標高250～550mの山地であり、スギ (*Cryptomeria japonica*) やヒノキ (*Chamaecyparis obtusa*) の人工林と、ヤブツバキクラス域代替植生であるアカマツ群落からなる自然林が見られる（図2）。自然林は高木層にアカマ

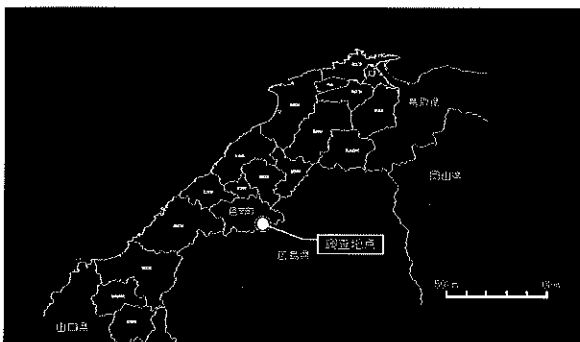


図2 調査地点(邑南町旧羽須美村地内)

ツ (*Pinus densiflora*), ソヨゴ (*Ilex pedunculosa*), リョウブ (*Clethra barbinervis*), コナラ (*Quercus serrata*), アベマキ (*Quercus variabilis*) など、低木はアセビ (*Pieris japonica*), ヒサカキ (*Eurya japonica*), ヤブツバキ (*Camellia japonica*) など、林床はチュウゴクザサ (*Sasa veitchii* var. *tyugokensis*) などのササ類が優先している（図3）。調査地周辺はマツ枯れの影響は比較的少なく、尾根沿いを中心にアカマツが分布している。

現地調査は田中・安藤の2名で、2019年2月21日、10月20日・27日、11月14日、12月10日に図1撮影地点周辺の尾根上にあるアカマツ群落で実施し、食痕の確認を行った。ニホンリスはオニグルミ (*Juglans ailantifolia*) やマツ類種子など、特定の樹種に強く依存しているため（矢竹・田村, 2001）、それらへの食痕の有無を中心に調査を行った。その他、個体の目視、樹上の巣、糞の有無の確認を行った。

また、球果に齧歯類の食痕が見られたアカマツの樹幹に向けて、自動撮影ビデオカメラ（ハイカムSP2、株式会社ハイク）1台（撮影期間は2019年10月20日～12月10日）、自動撮影カメラ（Filed Note DUO、有限会社麻里府商事）2台を設置し（撮影期間は2019年10月27日～12月10日）、生息状況を調査した。



図3 調査地点の植生

3. 結果および考察

アカマツ球果の食痕については、10月20日・27日に調査地点内の特定のアカマツ下で集中的に採取することができた（図4）。また、設置した自動撮影カメラ（Filed Note DUO）で、11月1日（図5）、11月7日（図6）に改めてニホンリスが撮影され、調査地区内における本種の生息が確認された。

なお、目視による個体の発見や、巣の確認、糞やオニグルミの食痕は確認できなかった。



図4 マカマツ球果の食痕



図5 ニホンリス(2019年11月1日撮影)



図6 ニホンリス(2019年11月7日撮影)

本調査によって、アカマツ種子が結実する9月～12月において、調査地区内にニホンリスが生息していることが確認された。アカマツ球果の食痕は10月20日にサンプルとして採取した後、10月27日に再度同じアカマツの林床を確認したところ、新たな食痕が残されていた。食痕のみではムササビ (*Petaurista leucogenys*) との見分けが困難(田村, 2001)であるが、この間、継続してニホンリスが訪れていた可能性

がある。また、その後の11月1日および7日にこのアカマツの樹幹に向けて設置した自動撮影カメラがニホンリスを撮影したことから、長期間このアカマツを利用していただ可能性がある。交尾出産期にあたる2月にも撮影されている(図1)ことから、調査地区内には1年を通じてニホンリスが生息している可能性が示唆された。

島根県内のアカマツはマツ材線虫病により、昭和59年には県全体で11万m³もの被害があり、それ以後は減少傾向ではあるものの被害は継続しており、平成30年度は8,100m³の被害量となった(島根県, 2019)。民有林におけるマツ林面積も10年間で8,000ha減少し、現在72,000haとなっている。本調査地は島根県内では比較的マツ枯れの影響が少なく、ニホンリスにとって主要な餌資源を供給するアカマツが多く残存していたため、ニホンリスの生息が確認できたものと考えられた。

しかしながら、調査地区内に落下していたアカマツ球果に対し、食痕の採取箇所が一部のアカマツに限定されていたため、その生息頭数は少ない可能性が示唆された。今回の棲息確認は環境省レッドリスト(2019)に絶滅の恐れのある地域個体群(LP)として記載されている中国地方のニホンリスとしては、最も西側での発見であり、今後、より詳細な分布調査を行う必要がある。

謝 辞

島根県立三瓶自然館の井上雅仁学芸員には、現地の植生に関してご教示していただいた。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 阿部永(監修). 2005. 日本の哺乳類. 改訂版. 東海大学出版会. 206pp.
- 広島県. 2011. 改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生生物. レッドデータブックひろしま. pp.51.
- 環境庁. 1993. 第4回自然環境保全調査・動植物分布調査報告書(哺乳類). 哺乳類分布図. pp.89.
- 環境省. 2019. 環境省レッドリスト2019. 別添資料2〔哺乳類〕. pp.2.
- 岡山県. 2009. 岡山県版レッドデータブック2009. 絶滅のおそれのある野生生物. pp.34.
- 島根県. 2014. 改訂・島根県の絶滅のおそれのある野生動植物. しまねレッドデータブック2014(動物編). pp.34.

島根県. 2019. 令和元年度島根県の森林・林業・木材産業. pp.17.
田村典子・松尾龍平・田中俊夫・片岡友美・広瀬南斗・富士本
八央・日置佳之. 2007. 中国地方におけるニホンリスの生息
状況. 哺乳類科学47: 231 - 237.

田村典子. 2011. リスの生態学. 東京大学出版会, 211pp.

鳥取県. 2012. レッドデータブックとっとり改訂版. pp.29.

山口県. 2019. レッドデータブックやまぐち2019. 山口県の絶
滅の恐れのある野生生物. pp.38.

矢竹一穂・田村典子. 2001. ニホンリスの保全ガイドラインつ
くりに向けて. 哺乳類科学41: 149 - 157.